

## トヨタ車にアマゾンA I 音声操作、アップルなど猛追

2018/1/17付 | 日本経済新聞 朝刊

【デトロイト＝兼松雄一郎】トヨタ自動車が15日、北米国際自動車ショーで米アマゾン・ドット・コムの人工知能（A I）「アレクサ」を搭載した新型車を発表した。車の中から音声で家のエアコンを操作できるほか、ネットでの買い物も可能になる。アマゾンはA Iスピーカーで高まるシェアを武器に、自動車も含めた経済圏の拡大をはかっている。（[1面参照](#)）

自動車向け基本ソフト（O S）では米アップルの「カープレー」、米グーグルの「アンドロイド・オート」に対応する動きが続いてきたが、さらにアマゾンの「アレクサ」に対応する動きが急激に広がっている。トヨタは18年春にも「アレクサ」を搭載する上級セダンを発売する。

背景にあるのはアマゾンの低価格戦略による高いシェアだ。米調査会社イーマーケットによると、音声操作機能がついたA Iスピーカーで、米市場でのアマゾンのシェアは7割を超える。グーグルが食らいつつはいるものの、低価格の端末拡販でアマゾンの勢いは増す一方だ。最も小さいモデルは5千円程度で売られる場合も多く、まとめ買いで値段は一段と下がる。型落ちモデルなら3千円程度。1部屋に1台置く家庭も珍しくない。

アマゾンはクラウドサービスで培った営業力でアレクサの搭載先の開拓を進めている。音声操作に対応した他社サービスではいまやアマゾン向けが最も充実しており、好循環ができています。

同社はスマートフォン（スマホ）のブランド確立に失敗し、音声操作の用途開拓はアップルとグーグルが先行していた。だが、家で使い慣れたサービスを車内でも使いたい消費者は多い。自動車メーカーがアレクサ対応を急ぐのはこうした事情がある。

北米自動車ショーの主な発表  
（14、15日＝現地時間）

|  |   |
|--|---|
| トヨタ自動車                                   |   |
| セダン「アバロン」の新モデルにアマゾンのA Iを搭載               |   |
| V  | W |
| 3年間で北米に3660億円投資                          |   |
| 日産自動車                                    |   |
| 3列シートSUVのデザインコンセプト車                      |   |
| フォード                                     |   |
| 電動車40モデルに最大1兆2200億円投資                    |   |
| アキュラ（ホンダの高級ブランド）                         |   |
| 新型SUV「RDX」のプロトタイプを世界初公開                  |   |
| BMW                                      |   |
| PHVのスポーツカー「i8クーペ」を世界初公開                  |   |
| レクサス                                     |   |
| SUVの最上級コンセプトを披露。EV、FCV、PHV、HVの「すべてに対応する」 |   |

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.